親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
傍 常①	ボウ かたらわ つくり				大徐・人部			書譜	史事帖	弔比干墓文	等慈寺碑	干禄字書	王勃詩序
										劉碑造像記		五経・序	
傾 常①	ケイ かたむくか たむける				大徐・人部		郙閣頌	智永千字文	晋祠銘	元遥墓誌	孔子廟堂碑・覆	五経・人部	王勃詩序
					大徐・自部						泉男生墓誌		
傑 常①	ケツ すぐれる			郭店楚簡	大徐・人部		樊敏碑		興福寺断碑	王誦墓誌	寇憑墓誌	五経・人部	王勃詩序
					段注・人部					元晫墓誌	道因法師碑		
債 常①	サイ				新附・人部						裴休		杜家立成
催 常①	サイ もよおす うながす				大徐・人部	楼蘭漢簡		王献之		王遥墓誌	世説新書		王勃詩序
傷 教6 常①	ショウ いたむいた める きず やぶる			睡虎地秦簡	大徐・人部	銀雀山竹簡	敦煌漢簡	淳化閣帖	淳化閣帖	敬史君碑	鄭黒墓誌	五経・人部	王勃詩序
				包山楚簡		馬王堆	北海相景君碑			元維墓誌	泉男生墓誌		光明皇后
						敦煌漢簡				元暐妻王夫人墓誌	張明墓誌		
僧 常①	ソウ				新附・人部				集字聖教序	敬史君碑	化度寺碑		法華義疏
僧 人③										張道仁等造像	道因法師碑		王勃詩序
働 教4 常①	ドウ はたらく												

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
藤原俊成	節用	人10								○		干禄〈通〉	傍 現代中国
												干禄〈通〉	
粘葉本朗詠	庭訓往来	人11											傾 現代中国
後宇多天皇	元禄太平記	人11											杰 現代中国
	節用	人11											債 現代中国
佚名白詩	農家用文章	人11										唐・孫過庭	催 現代中国
元暦萬葉①	節用	人11										江戸五経(盛)	伤 現代中国
粘葉本朗詠	節用	人12			教科書					×		北魏・劉碑造像記	僧 現代中国
												北魏・比丘道匠造像	
	後家 統消息往来				教科書							国字	動 現代中国

【傍】干禄字書では「傍」と「旁」を〈通〉としている。五経文字では序文に「傍」を使っている。漱石は不思議な字体を書いている。

【傾】大徐本の人部にある字で「仄也」とあり、自部にも「仄也」とする字がある。

【傑】大徐本と段注本の字体が異なる。

【傷】通(用)字体は正(統)字体よりも1画あるいは2画少ない。漱石は不思議な字体を書いている。

【働】国字。中国では「働く」の意味に「動」を使う。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
傭 人①	ヨウ やとう				大徐・人部							五経・人部	聾瞽指歸
傲 新②	ゴウ おごる あなどる あそぶ				大徐・人部	段注・人部				東方朔画賛	樊氏墓誌		
僑 ①	キョウ	古璽	睡虎地秦簡	睡虎地秦簡	大徐・人部	段注・人部	曹全碑陰			蕭憺碑		五経・人部	
像 教5常①	ゾウ かたち			子彈庫楚帛	大徐・人部		西狭頌		集字聖教序	魏霊蔵造像	牛闕造像記		聖武天皇雑集
							北海相景君碑			魏霊蔵造像	張猛龍碑		
僕 常①	ボク しもべ	甲骨	令鼎	睡虎地秦簡	大徐・奚部	馬王堆	武威漢簡	淳化閣帖	集字聖教序	元珍墓誌	雁塔聖教序	干禄字書	王勃詩序
			金文	睡虎地秦簡	大徐古文	馬王堆	甘陵相残碑	王献之		高貞碑	房玄齢碑	五経・弊部(大徐)	瑚玉集
			包山楚簡	睡虎地秦簡		武威漢簡					温彦博碑	五経・弊部(隷省)	聾瞽指歸
僚 常①	リョウ つかさ とも				大徐・人部		曹全碑			元颺墓誌	皇甫誕碑	五経・人部	王勃詩序
							曹全碑			高貞碑	道因法師碑		
億 教4常①	オク		史籀盤	戦国・金文	大徐・人部		禮器碑			論経書詩	九成宮	九経・人部(大徐)	聖武天皇雑集
					段注・人部							九経・人部(隷省)	
儀 常①	ギ のり		金文		大徐・人部	武威漢簡	三老諱字忌日記	智永千字文	集字聖教序	高貞碑	九成宮		王勃詩序
							西狭頌		集字聖教序	李蕤墓誌	等慈寺碑		

【傲】2011年の新常用漢字。大徐本と段注本の字体が異なる。現代の日本と中国の字体は微妙に違う。弘道軒と現代中国の字体が同じ。

【僕】旁を「業」とする字体が多く書かれてきた。これを干禄字書では〈俗〉とし、「僕」を〈正〉とする。五経文字では「僕」を隷省とし、説文に従う字体を別に挙げている。

【億】西周の金文にはニンベンがない。九経字様では説文に倣った字体を挙げ、「億」の字体を隷省としている。

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
	節用	人 11											佣 現代中国
		人 11			明治の漢字								傲 現代中国
		人 12											侨 現代中国
前田本北山抄	京城勝覧	人 12			教科書					○			像 現代中国
元暦萬葉⑰	節用	人 12										干禄〈俗〉	仆 現代中国
元暦萬葉⑱		古文											
元暦萬葉⑱	節用	人 12										北魏・寇演墓誌	僚 現代中国
平等院鳳凰堂		人 13								○			亿 現代中国
元暦萬葉⑩	女用文章	人 13											仪 現代中国
	節用												

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
僻 ①	ヘキ ひがむ			包山楚簡	大徐・人部	段注・人部					泉男生墓誌	干禄・序	瑚玉集
償 常①	ショウ つぐなう		金文		大徐・人部	居延漢簡		居延漢簡		王羲之黄庭経	圭峰禅師碑		
儲 人①	チョ もうけ たくわえ				大徐・人部	段注・人部	鄭固碑			高貞碑	不空和尚碑		王勃詩序
優 教6常①	ユウ すぐれる やさしい まさる ゆたか				大徐・人部	馬王堆	甘陵相残碑	智永千字文	集字聖教序	欒龍顔碑	雁塔聖教序		曝曬指歸
								孫過庭書譜		天平墓誌			
允 人①	イン じょう まこと まことに	甲骨	金文	郭店楚簡	大徐・儿部	馬王堆	孔彪碑			元詮墓誌	高貞碑	干禄・序	雅毛筆奉献表
		甲骨	金文	郭店楚簡		馬王堆	嘉平石経			諮議元爵墓誌	孔子廟堂碑	九経・儿部	
			石鼓文	子弾庫楚帛						鄭義下碑	孟法師碑		
元 教2常①	ゲン ガン もと こうべ はじめ	甲骨	金文	侯馬盟書	大徐・一部	馬王堆	三老諱字忌日記	居延漢簡	集字聖教序	元詳造像記	温彦博碑	干禄・序	王勃詩序
		甲骨	金文	睡虎地秦簡	段注・一部	敦煌漢簡		興福寺断碑		始平公造像	孔子廟堂碑	九経・一部	
兄 教2常①	ケイ キョウ あに	甲骨	金文	侯馬盟書	大徐・兄部	馬王堆	鄭固碑	淳化閣帖	王献之	元孟輝墓誌	温彦博碑	五経・儿部	王勃詩序
		甲骨	金文	睡虎地秦簡		武威漢簡				高貞碑			王勃詩序
		甲骨	金文	包山楚簡									
		甲骨	金文	包山楚簡									

【僻】干禄字書の序文と康熙字典の字体が一致しない。
【償】金文は『金文編』に掲載の例。ニンベンがない。それなら「賞」ではないかとも思うが、初文ということらしい。
【儲】康熙字典には人部の16画にある。
【允】古代の字体を見ると、上部は「以、目」に関係するように思える。
【兄】古代の字体が多様。人の手のギザギザは何だろう。金文に榊のようなものを加えた字があり、包山楚簡にもそれに似た字がある。

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
尼崎萬葉⑯	節用	人 13											僻 現代中国
	節用	人 15											償 現代中国
元暦萬葉⑱		人 16											儲 現代中国
粘葉本朗詠	節用	人 15											優 現代中国
	節用												
前田本北山抄	庭訓往来	儿 2											允 現代中国
元暦萬葉①	節用	儿 2											元 現代中国
元暦萬葉①	女大学	儿 3										殷・甲骨	兄 現代中国
												周・金文	

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

【儿】兇光充先兆

親字	音訓	甲骨文・金文・古文（殷・西周・春秋・戦国）			説文解字 秦篆	隷書（秦・前漢・後漢）		草書	行書	楷書（南北朝から初唐）		正字体 楷書	日本上代から平安初期
兇 ①	キョウ おそれる		古璽	睡虎地秦簡	大徐・凶部	銀雀山竹簡				敬史君碑	泉男生墓誌	江戸干禄	瑚玉集
				九店楚簡		馬王堆							
光 教2常①	コウ ひかり ひかる	甲骨	殷金文	中山王方壺	大徐・火部	段注・火部	馬王堆	淳化閣帖	集字聖教序	鄭義下碑	九成宮	干禄字書	王勃詩序
		甲骨	金文	包山楚簡	大徐古文	段注古文	馬王堆					五経・火部(大徐)	
		殷金文	金文	睡虎地秦簡	大徐古文	段注古文	曹全碑					五経・火部(隷変)	
充 常①	ジュウ あてる みたす みちる				大徐・儿部	馬王堆	敦煌漢簡	智永千字文	高宗 李勣碑	比丘法生造像	九成宮	五経・儿部	王勃詩序
						居延漢簡	石門頌			劉碑造像記	孔子廟堂碑(覆)		王勃詩序
先 教1常①	セン さき まず	甲骨	毛公鼎	金文	大徐・先部	馬王堆	曹全碑	十七帖	淳化閣帖	楊大眼造像	孔子廟堂碑	五経・序	光明皇后 楽毅論
		甲骨	金文	睡虎地秦簡	段注・先部	武威漢簡							
		大盂鼎	侯馬盟書	包山楚簡									
兆 教4常①	チョウ きざし きざす			睡虎地秦簡	大徐・卜部	銀雀山竹簡	西嶽華山廟碑		唐 高宗 李勣碑	敬史君碑	九成宮	干禄字書	王勃詩序
				包山楚簡	大徐古文	居延漢簡				元定墓誌	張去奢墓誌		
										元遥妻樂氏墓誌	等慈寺碑		
										檀賓墓誌	唐 殷玄祐 契苾明碑		

【兇】干禄字書では「兇」を〈通〉とし「凶」を〈正〉としている。現代中国でも「凶」を用いる。
【充】咎なし点がつくことがある。
【兆】卜部にある字だが説文以外には「卜」のある字はみえず、古代から現代まで書かれてきた字体は、説文古文の字体に近い。

平安中期から室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～大正3年	漢字整理案 大正8年	文部省活字 昭和10年	当用漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
二本紀 竟宴和歌	節用	儿4										江戸干禄(通)	凶 現代中国
元暦萬葉①	節用	儿4										干禄(通)	光 現代中国
元暦萬葉10												漢・居延漢簡	
関戸本朗詠	節用	儿4											充 現代中国
粘葉本朗詠	節用	儿4											先 現代中国
尊円親王	節用	儿4										干禄(通)	兆 現代中国

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。